

“ドリルの大切さ…”

“ドリル”とは、穴をあけるための工具の名称ですが、ここで話をする“ドリル”は『訓練、反復練習』の意味の方で考えてください。以前、男子バスケットボールチームが、大きな大会（アジアカップ）で中国に約90年ぶりに勝利した試合がありました。そのチームに所属している河村勇輝選手（現在 NBA で活躍中）は、身長は172 cmぐらいと小柄です。河村選手は、スリーポイントシュートが得意で目隠しをしてもシュートを決めることができます。確かに河村選手は才能？センス？は秀でていていると思いますが、いろいろな角度から、いろいろなシチュエーションでも確実にスリーポイントシュートを成功させることができます。ここまでできるようになるには一体どれくらい練習をしたのか自分には想像が付きません。きっと、毎日毎日、繰り返し、ドリル練習をしていたのだと思います。そして今も続けているのだと思います。自分がソフトボール部の顧問をしていた時、サードを守る生徒にサード前バント処理で1塁ベースを見ないで送球する練習ことをひたすらやらせて、身体にその感覚を覚えさせていました。（足の速い選手にバントされると1塁を見ての送球だとみんなセーフになってしまうので）その成果もあって、3塁前にバントを決められたことは、ほとんど記憶にありません。また、先日テレビの全国中高生ニュースで紹介された卓球少年（10歳）は、休みの日は6時間も練習をするそうです。その成果もあって、スマッシュを狙った所に打ち込むことができ、この世代ではトップクラスの選手になっています。やはり、この子も毎日毎日、同じような練習をひたすら繰り返しています。ドリル練習をしているのです。皆さんは、どうでしょうか？自分の種目、楽器の技術を向上させるためにドリル練習をどれくらい行っていますか？決められた時間、指示されたことだけで終わっていませんか？教えてもらったこと、できるようになったことをすぐにドリルして自分のものにしていく人はどれくらいいますか？できるようになったことを頭や体にイメージとして覚えさせることがとても大切なのです。学習面も同じです。皆さんも小学校の頃、毎日の音読、漢字ドリル、計算ドリルを宿題としてやっていたのではないのでしょうか。文章を声に出して読むこと、漢字を書くこと、計算をすることは、大昔から大切なことと言われてきました。

（いわゆる“読み・書き・そろばん”です。）今、中学生の皆さんは、いろいろな教科でワークを購入して取り組んでいると思います。ちなみに1、2年生の皆さんは、今回の定期テストでワークを何回取り組みましたか？そしてテストが終わったからと行って、今、何もしていない、という人はいませんか？当然ですが、目標を高く設定するならドリルの回数を増やすことです。部活動でも県大会に進めるチームは2～3校です。普通に考えたら印旛郡市で1番の練習の質と量をこなさなければなりません。部活動も勉強も高い目標を目指すならドリルを増やすことで、自分にもできるというイメージを持てるまでドリルすることが必要なのです。